

令和元年度石巻市子どもの未来づくり事業（第Ⅲ期）

「学習指導の改善を図る研修会」

第7回、第8回研修会

- 日時 令和元年9月26日（木）、30日（月）
9：25～
- 場所 桃生公民館
- 講師 弘前医療福祉大学 小玉有子教授
早稲田大学大学院 高橋あつ子教授

☆研修内容

- 26日午前：反社会的行動・非社会的行動の理解
- 26日午後：ブリーフセラピーの実際
- 30日午前：IEP作成と支援方策
- 30日午後：UDLと合理的配慮

26日は、生徒指導担当・不登校いじめ担当が、30日は特別支援教育コーディネーターの先生方が受講されました。

午前の研修の前に、それぞれ中学校区での話合いの時間を持ちました。組織としての生徒指導対応、学校の支援体制について持ち寄った資料を基に情報交換をしていただきました。



【小玉先生の研修のポイント】

- ① 児童生徒の見取りがすべて。アセスの活用を！
- ② 例えば「集団場面では聞き取れない」という子は、「何人からだめなのか」、「どんな場面は大丈夫か」といった細かな把握が必要となる。
- ③ 不登校を出さないためには、協同学習、ピア・サポート、SEL等の取組みにより、クラス全員が特性を認め合い、助け合えるような学級風土をつくること。
- ④ ブリーフセラピーの手法は、いつでもどこでも実施できる。構えすぎずユーモアをもって！

【高橋先生の研修のポイント】

- ① 通常学級にいる気になる子を「皆と同じようにできる」ようにさせてはいないか？
- ② IEP作成の中で、目標設定は大切。遂行目標をもとに学習目標を立てていく。何ができるか、どこでつまづいているかを細やかに分析しよう。
- ③ IEPは特別支援教育コーディネーターが、通常学級の担任に聞き取りをしながら作成を支援するとよい。（*文科は担任が作成するものと示している）
- ④ UDLにおいて、教師の役割も変化する。ティーチングからコーチングへ。
- ⑤ 主体的に取り組む力を育てるには、「目標設定」「単元ゴールとWHY」等、子どもが展望しやすい仕掛けが必要。

取り組んでいただきたいこと

- ブリーフセラピーについては、校内研修を通して、多くの先生方が取り組めるようにしましょう。
- IEP作成は、実際に書いてみると、難しいものです。複数で1つの事例を取り上げ、話し合いながら作成してみましょう。

【受講者の先生方から】

26日（◇：午前、★：午後）

◇様々な問題の基に発達障害があることが分かりました。それぞれに応じた手立てが必要で、それをきちんと教師側が分かっているのと、子どもたちを守れないと思いました。

◇反社会的行動・非社会的行動の背景には、共通の背景があることを改めて共感できた。子供の状況を理解し、適切な対処が必要であることを感じた。

◇反社会的行動・非社会的行動の根本にあるものは、ネガティブ体験である。教師の対応が全く異なることは、不平等である、という話はとても胸が痛かった。自分の指導を顧みる機会となった。

★ブリーフセラピーの「簡潔にそして効果的を目指す」「資源を見逃さない」「やり方もこだわらない」「ゴールを設定する」「積極性と柔軟性」など大変勉強になりました。

★原因の解明に重点を置いて、何か問題があったときは、過去思考で嫌な話ばかりをさせていました。今回の研修では、今のこの状態から解決までの間が大切だと思いました。「どうしてこうなったのか」から「どうしたら～のようになると思う」といった未来話で、今後児童の話聞いていきたいと思えます。

★リフレーミングとパラフレーズという考え方に共感しました。少し言葉を変えるだけで、印象が大きく変わり、相手に与える影響が劇的によくなったと思いました。明日から意識して実践してみます。

30日（□：午前、●：午後）

□個別支援計画や指導計画を作成する上で、課題分析がとても重要であり、予想以上に難しいことが分かりました。担任の先生に任せるのではなく、一緒に作り上げていけるように進めていきたいと思いました。

□IEP作成の中で、「目標の設定」は重要なことであり、具体的で達成可能なものであるだけでなく、チャレンジしたくなるようなものであることが分かった。

□目標について、遂行目標と学習目標という見方があるのを初めて知り、しっかりした支援を具体的に行うには、目標をしっかり立てることが大切だと思った。

●UHLの重要性を改めて感じました。「使わなかったらそれでいい」という感覚で、生徒の興味関心や能力に応じた学習課題を準備して、授業にのぞむことを意識し、実践していきたいと思いました。

●UDLに関しては、意識せずに行っていたことがUDLであったことが理解できました。難しく考えず、子どもたちがそれぞれ居心地よく学ぶことができる環境とは何かに取り組んでいきたいです。

●UDLについて深く研修させていただき、ぜひガイドライン1つから実践していきたいと思いました。

●多様性のある社会だからこそ、UDLが当たり前の学校環境にしたいです。

●今日研修したことを先生方に理解してもらうだけではなく、底上げもしなければならないということ、多文化理解、とても共感するところでした。

○多様性の課題について、コーディネーターだけでなく、管理職の先生や通常学級の先生にもぜひ聞いてほしいと思いました。

